

旧赤星鉄馬邸一般公開ウィークの実施について

建物見学の見学希望が多く寄せられていたため、この建物の存在を広く知っていただき、また今後の保存・利活用検討をしていくにあたり、多様なご意見をいただくための取組みの1つとして、期間限定で一般公開を行った。メディアで多く取り上げられたことから反響も大きく、非常に多くの方々にご見学いただいた。今後秋にも期間限定の一般公開を予定している。

- 1 日 時 令和5年5月10日(水)～5月16日(火)
午前10時から午後3時半まで(最終受付午後3時)
- 2 対 象 どなたでも ※申込不要、見学無料
- 3 内 容 建物内の順路に沿って見学、庭の見学も可能
- 4 入場者数 4,917人 (内訳:5/10(水)257人、5/11(木)358人、5/12(金)634人、5/13(土)765人、5/14(日)980人、5/15(月)798人、5/16(火)1,125人)
- 5 見学者から出された主な質問(赤星鉄馬の人物像や所有者の変遷など概要に関することは除く)

NO.	質問	現時点で市が把握している情報
1	赤星の読み方は、「あかぼし」又は「あかほし」どちらが正しいのか？	鉄馬の孫からの聞き取りによると正しくは「あかぼし」であるが、鉄馬が渡米した際には、アメリカ人が発音しやすいように「あかほし」を通称として使っていたとのこと。市としては本来の「あかぼし」を使用することとする。
2	藤棚は竣工当時からあるのか？	鉄馬の孫からの聞き取り及び当時の写真により、接收前(S16~17頃)には既に藤棚となっていたことが判明した。
3	噴水は竣工当時からあるものか？	鉄馬の孫からの聞き取りにより、鉄馬が噴水を設置したのではなく、進駐軍接收時に設置したことが判明した。なお、接收解除時の図面からも噴水が設置されていることがわかる。
4	1階日本間から庭への出口においてある大きな石は竣工当時からあるものか？	竣工時の写真からは確認できないが、鉄馬の孫からの聞き取りにより、鉄馬が設置したとのことであった。
5	窓枠がアルミサッシになったのはいつごろか？	詳細な時期は不明であるが、シスターからの聞き取りによると修道女時代会であるようである。
6	居間・食堂、日本間の南側の格子柵はなにか？	防犯として、竣工当時から設置されていた。
7	2階の納戸の床が高くなっている理由は？	不明
8	2階の廊下のカウンター表面(石材調)の材質は？施工当時からのものか？	竣工当時のものかは不明
9	GHQは旧赤星邸を何に使っていたのか？	鉄馬の孫からの聞き取りにより、進駐軍の接收住宅として大佐(コーネル)とその妻が居住していた。

6 見学者から出された主な意見・提案等

NO.	意見・提案等
1	オリジナルの状態に復元してほしい
2	増築部と本邸部（登録有形文化財）の利用の使い分け
3	庭を残してほしい、庭の手入れ、樹木の保存、四季の花が楽しめる
4	次世代に建築の保存の良さを伝える
5	関わった人たちの暮らし、庭との関わり、まちの様子など当時の生活が分かる工夫
6	赤星鉄馬の経歴、歴史伝承
7	モダニズム建築や戦争の歴史、文化が学習できるとよい
8	GHQ 時代や修道女会時代にどこがどのように改装されたのかわかるような展示
9	庭と建物の相互関係があるとよい（庭を使う時は建物も、建物を使う時は庭も使う）
10	庭を生かした喫茶スペース、庭でお茶を楽しめる
11	テラスにベンチを置き、ゆっくり庭を眺められるように、小部屋に読書用の椅子を置く
12	ミュージアム、企画展、美術展
13	カフェ、レストラン、飲食を提供できるスペース
14	コンサート、結婚式ができるとよい
15	宿泊施設、ゲストハウス、シェアハウス
16	小さなショップがいくつも入る商業施設
17	市民が日常的に気軽に利用できる、市民のための施設、地域に開かれた施設
18	幅広い年齢層が集まる、多世代交流
19	小中学校の課外授業コース
20	セキュリティ面での対策（破損、盗難などの回避）
21	管理要員の一部にボランティアを活用してもよいのでは
22	入館料（入場料）を徴収して維持管理費にあてるべき（パンフレットも販売など）
23	クラウドファンディングで資金を集めてはどうか
24	民間がやっても経済的に成立、民間活力を積極的に採用

7 一般公開をきっかけとして寄せられた利活用案、利活用検討に関する試み

- ・小学生の作品展示等の発表の場として活用することも検討できないか。（第一小学校副校長）
- ・旧赤星邸の歴史を振り返りながら、成蹊大学との関わりを紹介したうえで、「旧赤星鉄馬邸をどんな場所にしたいか」自分たちの意見を提示したい。（成蹊大学学生）

8 利活用を図るうえで一般公開を通して感じた課題認識

(1) 建物の保存・利活用に関して

- ・壊れやすいので家具には触れないよう注意喚起したが、触れたり、引出しを開ける人が少なからずいた。今となっては入手できない建材もあり、修復の困難性を踏まえると、使用の可否をどうするかが課題。
- ・今後、エレベーター設置や車いす対応トイレなど、保存とのバランスにおいて、どのようにバリアフリー化をするかが課題。
- ・見学者用トイレは旧赤星邸（登録有形文化財部分）を使用せず礼拝棟に限定したが、数が少なく多人数の対応が課題。また、水圧が非常に弱く修繕が必要。仮に、礼拝棟、修室棟を解体した場合に旧赤星邸（登録有形文化財部分）のトイレを使用するかどうか、庭の利用者のトイレをどうするかも課題。
- ・雨天時の傘（建物内持歩き）から垂れる水滴や消毒用アルコールの飛散によるシミ対策に苦慮した。雨天時の傘の運用や、コロナ対応のアルコール設置場所などが課題。
- ・自転車での来場者が多く（多い時で約 60 台駐輪）、車やタクシーで来る人もいた。駐輪場や駐車場をどのように整備するかが課題。

(2) 庭の保存・利活用に関して

- ・期間中に 5,000 人近くが庭を見学した結果、芝生がはげてしまった。植栽を保存しながら利活用をしていくためにどのようにするかが課題。

(3) 近隣住民への配慮

- ・2階の北側窓からの視界や、庭の南側奥への人の入り込み等に対して近隣住民へ配慮が必要なたため、窓ガラスに対する工夫や、庭の設え、運用をどのようにしていくかが課題。